

奥羽大学報



青春の群像（富田匠美氏作）と記念講堂

目次

第21回奥羽祭—百花斉放—/秋のオープンキャンパス/高校生の大学訪問	2
イーハトーブマスターズ水泳盛岡大会/採用担当者との懇談会/	
英会話短期集中プログラム/キャリアガイダンス	3
保護者懇談会(歯学部・薬学部)/第2回教員研修講演会/	
第2回・第3回教育研修・講演会/FD研修会	4
FD講習会/薬害に関する講演会/	
清浦有祐教授 歯科基礎医学会功労者表彰/	
山岸丈洋准教授 日本薬学東北支部奨励賞受賞/	
平成25年度日本薬学会東北支部 第2回物理・分析系若手研究者セミナー	5
山本正雅准教授 「血餅退縮」が起きるメカニズムを解明/	
大島光宏教授 歯周炎診断システムの実用化を目指した	
プロジェクトとして参画、企業が大型ファンド 2億円採択	6
玉井利代子准教授 ガレクチン3を研究/附属病院	7
図書館「蒲生明展」を開く —郷土が生んだ薬剤の開拓者—/同窓会だより	8
同窓生のひろば	9
人事	10
奥羽大学事務組織の改正	11
平成26年度入学試験日程/平成26年度 大学院歯学研究科入学試験日程	12

第21回奥羽祭—百花斉放—



実行委員長
及川 水綺
薬学部3年

10月19日(土)、20日(日)に、第21回奥羽祭を無事開催することができました。

今年は、昨年に比べ実行委員の総数は増えたものの3年生が3人しかおらず、不安を感じましたが、いざ始めてみると、お互いに支えあいながら頑張ることができました。そして3年生と一緒に1年生を引っ張っていかうとする2年生や、それに付いて行こうと一生懸命に動く1年生の姿に、上級生として自然と気が引き締まる思いでした。こうして実行委員が一丸となり、大きな問題もなく奥羽祭を迎えることができました。

20日(日)はあいにくの雨でしたが、それでも奥羽祭を成功させようと、全員が必死になって自分の役目を果たしていました。その結果、おいでくださった皆さまの沢山の笑顔に出会い、奥羽祭を成功させることができました。祭りが引けたあと、お互いのユニフォームにメッセージを書きあいながら、達成感を分かち合いました。準備から当日までメンバーが懸命に活動し、奥羽祭を成功させることができて、嬉しく思います。

末筆ながら、ご協力くださった多くの方々に、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

秋のオープンキャンパス

10月20日(日)、27日(日)に、秋のオープンキャンパスが開催された。

20日(日)は「奥羽祭を楽しもう」をテーマに行った。来場者は奥羽祭の様々なイベントに参加しながら、また個別進学相談ブースへも、たくさんの方々が足を運んでいた。

27日(日)は目前に迫った推薦入試を前に「推薦入試に備えよう」をテーマに行った。大学紹介、学部・入試の概要に加え、面接対策や小論文対策(歯学部)の説明も行い、来場した方々はメモをとりながら真剣に聴いていた。



高校生の大学訪問

11月1日(金)、7日(木)、12日(火)に県立石川高等学校、会津若松ザベリオ学園高等学校、県立小高商業高等学校の生徒が相次いで本学を訪問した。

今回の訪問では、歯学部附属病院や大学の図書館を紹介しただけではなく、大学で実際に行われている授業も見学してもらった。

各校の生徒は、高校とは異なった教室、設備に驚きながらも、大学の雰囲気を楽しんでいるようであった。



イーハトーブマスタース 水泳盛岡大会

11月23日(土)、24日(日)、盛岡市立総合プールで行われた東日本大震災復興祈念大会に本学歯学部3年生の河村享英君が参加し、下記の輝かしい成績を残した。現在競泳部では部員を募集しており、興味のある学生諸君は競泳部に問い合わせしてほしい。

男子平泳ぎ25～29歳	25m	1位
男子平泳ぎ25～29歳	50m	1位
男子平泳ぎ25～29歳	100m	1位
男子平泳ぎ25～29歳	200m	2位



採用担当者との懇談会

12月2日(月)、3日(火)の2日間、薬学部5年生を対象とした就職セミナーが本学メモリーにて行われた。病院、調剤薬局、製薬企業など110社205名が参加し、本学学生との面談が行われた。

懇談が始まると会場は活気に溢れ、熱心に採用担当者と面談をする姿が多く見られた。



英会話短期集中プログラム

9月23日(月)～9月26日(木)の4日間、福島県岩瀬郡天栄村のBritish Hillsにおいて、薬学部2年生を対象とした「英会話短期集中プログラム」が実施された。British Hillsは英語と英国文化を学ぶための研修施設で、外国人講師による多種多様な講座が開講されている。

初めて実施された今回のこのプログラムには希望者15名が参加し、4日間の日程中、約15時間の英会話のクラスと、約7.5時間のチェスやスコーン作りなどの英国文化に触れるための講座に取り組んだ。全ての講座が外国人講師によって英語で行われ、教室外でのスタッフとのやり取りも英語という環境の中、参加学生は当初戸惑いも見せたものの、2日目以降は緊張がとれ、友人同士の会話にも英語が混じるようになっていた。

最終日のスピーチ発表では、前日の夜遅くまで準備した内容を発表し合った。講師陣を感心させる学生も多数いて、プログラムは大きな教育成果が感じられた。参加学生の評価も極めて良好で、意義の大きなプログラムとなった。



キャリアガイダンス

11月19日(火)薬学部棟514教室において、歯学部の唐沢明先生を講師として自己PR、エントリーシートの作り方、履歴書の書き方を中心とした5年生対象のキャリアガイダンスが実施された。講演では自己分析シートを用いたアピールポイントの発見方法や、より人事担当者の興味を引くエントリーシート作成にあたっての注意点など、実践的な指導が行われた。

保護者懇談会

10月19日(土)、歯学部各学年の保護者懇談会が開催された。

参加者は、5月11日に開催された懇談会の40%に近い36%、特に6年生の保護者は42%であった。

懇談内容は、4年生のCBTの合格ラインが62.0%に引き上げられたことや新しい国家試験出題基準についての質問などが多く見られた。

この日は奥羽祭も行われていたため、大学内は学生と保護者、来客者で活気にあふれていた。



保護者懇談会

10月19日(土)、4・6年生の保護者を対象とした薬学部保護者懇談会が開催された。出席者は4年生25名、6年生15名で、学年別に2会場で行った。4年生の保護者には堀江学年主任が共用試験（特にCBT試験）に関して、6年生の保護者には衛藤薬学部長と高田学年主任が国家試験に関して、それぞれ今年度の学部としての取組みと実力試験等の結果を含めた現在の学習進捗状況を説明した。終了後、保護者からそれらに関する質問が相次ぐなど、熱心な姿が見られた。

第2回教員研修講演会

10月25日(金)、今年度、はじめての試みとして歯学部教員による歯学部の授業参観が行われた。授業の魅力や牽引力、授業スタイルや方略から自分の授業を見直し、個々の教育力を上げることが目的である。授業を行った菊地尚志先生、鈴木敏城先生、渡邊弘樹先生、岡田英俊先生、山崎信也先生、金秀樹先生より、授業の準備、指向、考え方をうかがうことができた。教育力アップという授業参観の目的をしっかりと確認できた研修会であった。

第2回・第3回教育研修・講演会

10月2日(水)、薬学部教育研修・講演会主催により、ベルリンフンボルト大学医学部心臓血管研究所からお招きしたKai Kappert (カイ・カッパート) 教授による講演会が開催された。演題は「血管リモデリングとインスリン抵抗性におけるタンパク質チロシンホスファターゼの役割」で、タンパク質チロシンキナーゼの脱リン酸化による細胞内シグナル伝達調節により、さまざま生体機能が調節されていることに関して、教職員ならびに学生が理解を深めた。

また、11月20日(水)には、ウプサラ大学病院遺伝学病理学部門からお招きしたPatrick Micke (パトリック・ミック) 准教授による講演会が開催された。演題は「肺がんのトランスレーショナルリサーチ:ウプサラ大学のアプローチ」で、がん患者の標本を基にバイオマーカーを検索する意義に関して、教職員ならびに学生が理解を深めた。



Kai Kappert 教授



Patrick Micke 准教授

FD研修会

10月30日(水)、薬学部棟513教室にて、「薬学教育新モデル・コアカリキュラムへの対応」と題して薬学部教職員を対象としたFD研修会が実施された。研修会ではまず、衛藤雅昭薬学部長、大島光宏教授、山岸丈洋准教授、高橋寛非常勤講師の4教員よりそれぞれ報告・説明があり、それを受けて質疑応答が行われた。

平成27年度から実施される新モデル・コアカリキュラムにいかに対応すべきか、教職員が真摯に取り組んだ。



FD講習会

現在、大学教育においては、教員が何を教えたかではなく、学生が何を学んだかが問われている。FD研修が欠かせないゆえんであるが、薬学部においては、11月18日(月)、福島県教育庁高校教育課指導主事の森下陽一郎氏を講師にお招きして、「新しい高校理科カリキュラム」についての講習会が実施された。特に薬学を学ぶ上で軸となる科目「化学」に関して、高等学校学習指導要領改訂の経緯と要諦、それに対する大学側のあるべき対応について学んだ。



薬害に関する講演会

11月14日(木)、薬学部1年生対象の授業「薬学概論」の一環として、「サリドマイド薬害被害者から学ぶ」と題した講演会が実施された。講師は、公益財団法人いしずえの増山ゆかり氏。ご自身、サリドマイド薬害被害者である氏より、1時間半に及ぶ講演があり、「薬は怖い」と認識した上で、「人の命を助ける」という貴い仕事に「正義の心」を持って邁進してほしい」と薬剤師を目指す学生たちに熱いエールが送られた。



清浦有祐教授 歯科基礎医学会功労者表彰

岡山市で9月21日(土)に開催された「歯科基礎医学会創立55周年記念式典」において歯学部口腔病態解析制御学講座 清浦有祐教授が功労者表彰を受けた。歯科基礎医学会は全国29歯学部の基礎系6部門（解剖学・生理学・生化学・薬理学・微生物学・病理学）の教員を中心とした学会で、約2400名の会員を有している。2013年に創立55周年を迎えたことから、記念式典が挙行された。式典の中で、永年にわたって歯科基礎医学会の向上と後進の指導教育に大きく寄与したとして表彰された。



山岸丈洋准教授 日本薬学東北支部奨励賞受賞

薬学部山岸丈洋准教授がこのほど日本薬学会東北支部奨励賞を受賞した。研究内容は、ホスフィンルジペプチドイノスター (PDI) の新しい立体制御合成法を開発し、この方法により種々の誘導体の合成にも適用できることを明らかにした。山岸先生によると「アスパラギン酸プロテアーゼは、タンパク質の分解を促進する酵素であり、エイズ、成人T細胞白血病、アルツハイマー病などの難病の発症に関与している。一方、PDIはアスパラギン酸プロテアーゼ阻害剤の重要な部分構造に利用されている化合物である。PDIにおいて、リン原子近傍の不斉中心の立体配置が活性発現に大きく影響するが、その立体化学を制御した合成例は極めて少なく、合成法の確立が望まれていた。私はリン原子上の不斉炭素原子に転写させる不斉転写を基本概念に設定した」という。



平成25年度日本薬学会東北支部 第2回物理・分析系若手研究者セミナー

11月9日(土)、日本薬学会東北支部第2回物理・分析系若手研究者セミナーが第三講義棟で開催された。ここでは奥羽大学吉田助教による機能性薄膜に関する研究、筑波大学三輪講師による産学連携を主点とした研究、東北大学高橋助教によるグラフェン電極に関する研究、日本大学齋藤准教授によるDNA 蛍光マーカーに関する研究の4演題が発表された。いずれも若手研究者による興味深いもので、特に三輪講師による研究者プレゼン支援に関する内容は来場者の関心を引くものがあった。

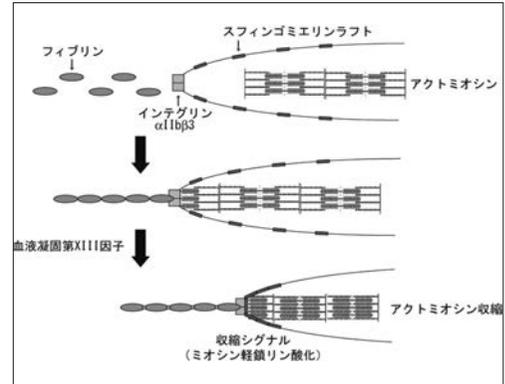


山本正雅准教授「血餅退縮」が起きるメカニズムを解明

血管が破れると、直ちに凝固因子が働いてくれるので、われわれは失血死の危機から免れている。血液凝固因子は全て水溶性であるので、フィブリンの形成は液相で行われると思われがちである。しかし、大切な凝固反応の場合は、血小板の膜表面なのである。今回、私が東京都医学研究所笠原浩二副室長・山形大学医学部分子病態学一瀬白帝教授らと明らかにしたのは、血小板膜表面に小舟のように浮いているスフィンゴミエリンが豊富な脂質ラフト（筏の様に浮遊した脂質）にフィブリンが乗り、第 XIII (13) 因子の働きにより凝固の完結である血餅退縮と呼ばれる血管の切断端を引き寄せる止血血栓形成時に見られる現象まで起きているという事実である。このラフト上で 13 因子は、見事に、フィブリンの受容体（インテグリン $\alpha IIb \beta 3$ ）の機能と血小板膜直下のミオシンの収縮反応機序と一体になり、ハーモニーを奏できるように収縮へと働き、血液凝固の完結に向かわせていることが明らかになった。この成果は米科学雑誌（Blood, 122 (19),

3340-3348, 2013）に掲載された。また 1 月（25～30 日）にコロラドで開催される生物学、医学、農学など多分野にわたるシンポジウムの Keystone Symposia でも紹介される。

（文責 山本正雅）



大島光宏教授 歯周炎診断システムの実用化を目指したプロジェクトとして参画、企業が大型ファンド 2億円採択

うつくしま次世代医療産業集積プロジェクトの一環として募集があった第4次ふくしま医療福祉機器開発事業補助金に、いわき市にある株式会社アイシーエレクトロニクスが「歯周炎診断システムの研究開発・事業化」という申請課題でこのほど採択された。この課題では、私たちが歯周炎患者さんの歯肉から見出し、上皮細胞と三次元培養するとコラーゲンを極度に分解することから「アグレッシブ線維芽細胞」と名付けた、歯周炎原因細胞である可能性の高い細胞を用いる。まずアグレッシブ線維芽細胞を誘電泳動法によって分離し、この細胞に特異的に発現する歯周炎マーカー遺伝子を調べ、唾液中の遺伝子産物（タンパク質）を器械によって検出することで、歯周炎の診断を試みる。この診断装置が実用化されれば、将来歯が抜ける可能性のある歯周炎の治療が必要な人だけをスクリーニングすることができると考えている。事業規模は3年間で約2億円。

（文責 大島光宏）

<採択されたプロジェクト>

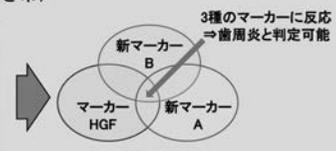
株式会社アイシーエレクトロニクス（本社：福島県いわき市）

「歯周炎診断システムの研究開発・事業化」

現状医療現場では歯周炎の治療法は確立されておらず、歯科現場では歯周炎とそれ以外を区別できる新たな診断ツールの導入が望まれている。本事業では誘電泳動法を応用したマイクロデバイスで、歯周炎の原因と言われるアグレッシブ線維芽細胞を分離濃縮したうえで、HGF以外のあらたな歯周炎特有のマーカーを検出する事により、新規診断器を開発製品化する。



従来品 (HGF)



開発品

プレスリリース
県HPより

玉井利代子准教授 ガレクチン3を研究

ヒトの細胞には、様々なレセプター(受容体)が発現している。そのレセプターの中には、センサーのように働いて微生物を捕らえるものがある。ヒトの細胞が微生物を捕らえると、カラダを守るためのタンパク質がつくられる。微生物を捕らえるレセプターのなかでも有名なのは、2011年にノーベル医学・生理学賞が贈られたトールライクレセプターである。例えば、細菌が持っている毒素をトールライクレセプターは捕らえることができる。そのトールライクレセプターと同じように、微生物を捕らえるガレクチン3というレセプターが私の研究テーマである。

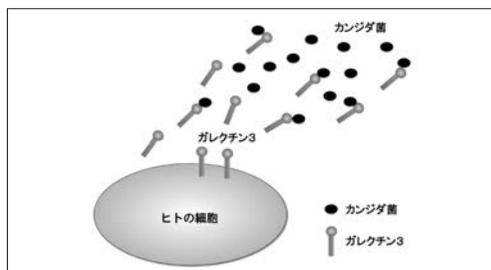
口の中に白い斑点ができてしまう口腔カンジダ症という病気がある。私は、その原因であるカンジダ菌(カビの一種)がヒト細胞からのガレクチン3の放出を促すことを発表した。つまり、ヒトの細胞膜上にあるガレクチン3が、細胞を離れてカンジダ菌を捕らえに行くということである。

私が抱えているもう一つの研究テーマに歯周病の原因菌がある。歯周病の原因菌は毒素を持っている。

その毒素とガレクチン3が結合しやすいが既に報告されているので、ガレクチン3と歯周病がどのように関係するのかを今後探っていく予定である。

なお、本研究は、第42回日本免疫学会で発表した(12月12日幕張)。論文としては、感染症学分野の国際紙である「Mycopathologia」第177巻に掲載される。研究にかかる費用の一部は日本学術振興会から受けた化学研究費補助基盤(C)でまかなわれている。

(文責 玉井利代子)



附属病院



医療事故防止のための相互チェック

11月22日(金)、附属病院において岡山大学と福岡歯科大学の両病院の実施委員による「医療事故防止のための相互チェック」が実施された。これは国立大学歯学部と私立歯科大学歯学部の参加により3大学以上を一組として、お互いの医療機関を医療安全管理及び院内感染対策の観点から、聞き取り調査、実地調査等により、医療事故防止のための精度を高める目的で2年に1度実施される。



臨床教育セミナー特別講演会

臨床教育セミナー特別講演会が2回にわたり臨床講義室で開催された。10月24日(木)は、歯学部8期卒で本学歯学部同窓会長の渡辺友彦氏を講師にお迎えし、「地域医療における歯科医師の社会的役割」と題して、開業歯科医師としての地域貢献についての講演をしていただいた。また、12月12日(木)には、一般社団法人福島県歯科医師会専務理事の海野仁氏をお迎えし、「歯科医師会と歯科医師連盟の役割について」と題して、講演をしていただいた。

歯科医師は生涯にわたる研鑽が必要とされ、国民の歯科医療に対する要求が高まっている今日において、両講演会とも研修歯科医他多くの関係者が熱心に聴講していた。



臨床教育力養成WS・指導歯科医資質向上講習会

今年度の臨床教育力養成ワークショップは、9月7日(土)、歯学部教員20名の参加により行われた。チーフタスクフォースとして東京歯科大学より杉戸博記准教授を迎え、「臨床実習生を教育するのに大切なものはなにか」をテーマにKJ法、2次元展開法をPCでプロダクトを作成し発表するなど有意義な研修であった。

また、12月7日(土)には、18名の参加者(開業医等他院、本学指導歯科医)により指導歯科医資質向上講習会が開催された。スーパーバイザーとして日本歯科大学新潟病院から水谷太尊准教授を迎え、「在宅歯科診療」「地域医療連携」について積極的なグループ討議や全体討議が行われ、実り多い講習会となった。

「蒲生明展」を開く ー郷土が生んだ薬剤の開拓者ー

10月1日(火)～31日(木)、図書館が所蔵する「蒲生明文庫」の資料を紹介する「郷土が生んだ薬剤の開拓者 蒲生明の世界展」が、図書館1階閲覧室で開かれた。今回の展示は4年前の「蒲生明展」に比べ、新たに調査した資料を加え倍近くになり、一般公開した。主な展示品は、生涯書き記した『日記』59冊、軍隊生活の翻刻版、軍隊手牒（大正5）、調剤器具50点、医薬品製造業登録申請書19件（主に大正、昭和前期）、入水鍾乳洞発見関係資料、関東大震災当時の新聞（大正12年9月8日号、現物）、蒲生明の著作物、原稿、独学で学んだ図書の一部、新村出・清水藤太郎・牧野富太郎ほかの書簡30点など。来館者は一様に「南方熊楠を想わせる人物だ」、「もっと世間の人々に知ってもらいたい」などと話していた。

蒲生明さんは田村市滝根町の出身。独学で薬学を学び、大正9年薬剤師の資格を取得、数多くの薬

を開発し、地域医療に貢献した。また、薬局経営のかたわら、入水鍾乳洞の発見やキノコや民俗学の研究を行い修得した言語は11カ国語にのぼる。ご子息の蒲生邦典さん（埼玉県在住、73歳）の話ではヘブライ語で聖書を読んだという。生涯にわたり在野の科学者として博物学的な蒲生明の世界を展開した。



同窓会だより

沖縄県支部

歯学部12期生 我如古 充

同窓会の皆様ご無沙汰しております。12期生の我如古です。第二の故郷である郡山を巣立って25年が経ちました、私は、3人の娘たちが巣立った故郷の宮古島で、妻と2人で、こつこつと保険診療に従事する日々を送っております。

さて、ご報告が遅れましたが、昨年の10月6日(土)に那覇市内の料理屋さんで、東北歯科大学12期同窓会 IN OKINAWA が開催されました。

沖縄での開催の運びとなる経緯は、前回5年前になると記憶しているのですが、前回の京都における同窓会の際に、今回は沖縄でという話で盛り上がり、私も酔った勢いで、皆さん沖縄に来てくださいと口が滑ってしまったことが発端でした。

しかし前年に、あの未曾有の大震災が起こり、多くの同窓生の方々が大変な日々を送ることを余儀なくされているこの時期に同窓会の開催はいかがなものかと考えましたが、前幹事の古田博一先生や沖縄本島の森屋正勝先生から、震災を体験された先生方からも、沖縄へ遊びに行きたいとの声が上がっていると聞かされ、それなら皆で沖縄を楽しもうと開催を決意しました。

参加人数18名で、久しぶりの再開に心弾ませて、変

わったところ、変わらないところなどを皆でワイワイ言い合いながら始まった1次会は、参加者それぞれの近況報告、震災により大きな被害にあわれた荻原裕志先生、木幡瑞秋先生の挨拶は、すごく前向きなもので、こちらの方が勇気や元気を頂き本当にありがとうございました。またこの会には参加できなかった菊井徹哉先生編集の思い出のスライドショー、そして12期のエース高田訓教授による歯科大の近況報告及び挨拶により会を閉めさせて頂きました。

2次会では、識名朝浩先生の尽力により、沖縄を代表するミュージシャン喜納昌吉さんのライブハウスで、喜納昌吉&チャンブルーズの生演奏に乗りながら沖縄の伝統的な踊りカチャーシーで大盛り上がり、ハブ酒、オトーリ(宮古島のお酒の飲み方です)で酔っぱらい、流れは当然3次会、ほぼ全員でカラオケスタジオに繰り出して、時間を忘れて歌いまくり沖縄の夜は更けていき、最後は3年後北海道で同窓会の開催と皆での再開を約束して、解散となりました。

12期生の皆様、次はススキノです。また皆で盛り上がりましょう。よろしくお祈りします。

最後になりましたが、同窓会に参加していただいた先生方、残念ながら参加いただけませんでしたが、わざわざ返信くださいました皆様、沖縄での開催にご協力くださいました本島の識名朝浩先生 森屋正勝先生 上原徳夫先生、前回の幹事で一から十までアドバイスしていただいた古田博一先生、この場をお借りして心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

同窓生のひろば



歯学部7期生 星野 弘志

日の暮れも早まり、冬の到来に備えたスタッドレスの交換などが気にかかる時節となりました。皆様方には、益々ご健勝のことと存じます。

東日本大震災から3年近い月日が流れようとしています。東北の同窓生の皆様にはその後いかがお過ごしでしょうか？

また、原発事故の未収束、入学定員割れなどと厳しい状況下において、日々ご尽力の大学関係者各位には、誠に頭の下がる思いです。

さて、私は卒業して約29年になります。春日部市、新潟市で数年勤務の後、平成元年に地元見附市で開業。現在4人の子供(男1・女3)に恵まれて、特に病気の辛い病気もせず(但し、検査結果は…苦笑い)忙しく過ごしております。

見附市は、新潟県のほぼ中央(重心)に位置し、昔はニットや織物で賑わっていましたが、今や外国製品に押され苦戦を強いられています。しかしながら、やはり技術は一流で、プロ野球選手のユニフォームの縫製などを手掛けています。(少し自慢)

またこの十年程の間には、7・13水害、中越地震、中越沖地震、大雪…と災害をたて続けに経験し、町人も疲弊し、その閉塞感は長期にわたります。そのような次第で私自身のなかでは、郡山は心ならずも意識の中から遠のきがちでした。皮肉なものであの震災以来、学生時代の友人、アパート、ドライブで巡った土地の数々を思わない日は一日たりとありません。ほかにも目を転じてみれば、台風被害、南海トラフ、TPP、近隣諸国との領土問題、相も変わらずの厳しい歯科業界…。平穏が日常で、災害は非日常とばかり思っていましたが発想の転換が必要で 事実はどうやら逆のようです。

近年眉間に縦じわを寄せたくなることばかりの毎日ですが、体が動くことに感謝し、日々淡々と成すべきことを為し、上機嫌で暮らしていきたいものです。

薬学部2期生 梅津 宣永

薬学部第二期卒業生として第97回薬剤師国家試験を無事通過し、郡山市内の病院に勤め2年が経とうとしています。また、初の6年制課程の卒業生ということもあり、必要とされている方々に薬剤師としてどのように自分が成長し関わっていけるのか、日々考える毎日を送っております。今特に感じるのは患者さんに関わった瞬間、特に新人であろうがベテランであろうが、薬剤室の中の人間はその方にとっては頼るべき薬剤師であるという事実。まだまだ極めるための道のりは長そうです。

さて何を書きましょうか？仕事のハウツーや心構えなどは他の先生方が書かれているでしょうから、私から伝えられることは何かあるだろうか考えてみました。なるほどそうか！この学報をご覧になられています皆様にはどのような趣味がありますでしょうか？私は大学に入学する少し前からサーフィンを趣味としてやっております。もちろん、乗ることも楽しいのですが、もう一つ楽しみとして気持ちのリセットがあります。平日のモヤモヤギューっとしたものは海に持って行きます。波がある日はせわしく動き回りモヤモヤを海に流し、波が無い日は、あー海はでかいなーなどと、ボーっと雲の流れを眺めながら雲にモヤモヤを乗せて流します。なので私は一年通して海に入っています。

学生の皆さんも就職し仕事のある日は常に真剣勝負となることでしょう。また自分にとって気持ちのいい日々ばかりでないのもまた事実です。それが連日続くこともあるでしょう。その時お酒で発散も良いでしょうが、限度を超える量の摂取は体によくありません。たまったモヤモヤギューを何とか健康的な方法で振り払っていただきたい。そのためにもこれがあれば！的なモノを持ってもらいたいですね。ただ就職と同時に趣味を始めてしまうと、趣味が初心者ゆえのストレスが発生してしまうと、ストレス二倍なんて事になったら目も当てられません。できれば是非、学生でいる今のうちから何か始められてはいかがでしょうか。

これから若い皆さんが活躍の場を広げていかれます事を、心より応援しています。

また、このような発表の機会を与えて下さいました同窓会会長の二階堂先輩、畑先輩に改めまして御礼を申し上げます。

文学部8期生 泉田由利子(旧姓:大太刀)

学報の原稿のお話をいただき、奥羽大学を卒業してからどのくらい経つのだろう…と、指折り数えてみたところ、13年も経過していました。どうりで、学生時代のことが懐かしく感じられる訳ですね。

私は大学卒業後、地元の町役場(栃木県)に就職しました。最初の所属先は税務課でした。文系の私にとって、苦手な数字をたくさん並べて仕事をするのは、苦勞の連続でした。今となっては、税金のことに詳しくなれたことや、素早く電卓をたたけるようになったことは、生活する上でとても役に立っています。

税務課から福祉課、市民課窓口の異動を経て、現在は建設課に勤務しています。途中、市町村合併があり、私の勤務する町役場も市役所になりました。勤務先が変わり、新しく一緒に仕事をする方も増え、仕事の方法が変わることに、当時は不安も戸惑いもありました。しかし、一緒に仕事をする方たちも不安や戸惑いを感じていたのは同じでしたので、すぐに打ち解け、助け合ってお仕事をすることができました。

どこに異動になっても、新しく一緒に仕事をする方たちとの人間関係や、新しい職場で必要になる知識を身

に着けるために、一から勉強しなくてはいけないので、異動した1年目はなかなか苦勞します。現在勤務している建設課では、主に道路の維持管理を担当しています。今年で2年目になりますが、専門的なことがとても多く、いまだに戸惑いを隠せません。初めは、私が今まで聞いたことのないような専門的な言葉でみんなが話すので、外国に来たかのごとく意味が分かりませんでした。1年が経ち、ようやく少し理解できることが増えてきましたが、まだまだ分からないことばかりです。自分には、まだまだ勉強が必要だと痛感しています。

私は、これまで仕事を続けてきた中で、職場の人間関係の大切さを常々感じています。職場の中だけでなく、子を持つ親同士、近所に暮らす者同士など、人との繋がりは無数にあり、やはり人間関係の大切さを感じます。最近では、人間関係に悩み、心の病にかかってしまう方が増えていると聞きます。周りの方たちに支えられて生活ができる環境にいられることが、本当にありがたいと感じます。微力ながら私も、そんな環境を今後も作っていけるよう努力していきたいと思います。

そして、またいつの日か奥羽大学で出会ったみなさんとお会いできるのを楽しみにしています。

人 事

<任用>

和田 康弘	歯科保存学	助 教	10月 1日付
細谷 尚史	成長発育歯学	助 手	〃

<採用>

田 島 友 加	学事部(歯学部担当)	事務職員	10月 1日付
後 藤 由 佳	学事部(薬学部担当)	〃	〃
高 木 真 理 子	総務部(総務課)	事務職員	12月 2日付
志 田 宜 丈	総務部(営繕課)	技術係長	〃
佐 藤 安 宏	総 務 部	事務職員	12月16日付

<昇格>

神 原 直 文	学事部(薬学部担当)	教務課長	10月 1日付
太 田 奈 央 子	学事部(歯学部担当)	主 任	〃
影 山 千 容	総 務 部	課 長	10月28日付
増 子 文 夫	〃	課 長	〃
斎 藤 克 義	総 務 部	技術係長	11月 1日付
山 田 博	〃	〃	〃
国 分 大 樹	〃	技術主任	〃
二 瓶 大 樹	〃	〃	〃
鈴 木 一 之	総務部(環境整備課)	課 長	12月 3日付

<異動>

小 磯 和 夫	歯科補綴学	助 教	10月 1日付
星 幸 宏	学事部(広報担当)	学生課長補佐	〃
佐 藤 哲 雄	事務局	事務局長	10月25日付
鳴 原 真 澄	総 務 部	係 長	〃

安 藤 政 明	企画・広報課	学生課長	10月28日付
星 幸 宏	〃	学生課長補佐	〃
渡 部 一	〃	主 任	〃
鷲 健 一	〃	〃	〃
佐 久 間 奈 美	総務部(理事長室)	〃	〃
太 田 奈 央 子	総務部(学長室)	〃	〃
馬 場 睦 月	〃(歯学部長室)	事務職員	〃
相 馬 明 子	〃(薬学部長室)	〃	〃
田 村 む つ み	〃(病院長室)	〃	〃
柴 田 由 美 子	病院医療部	臨床検査技師主任	〃
柳 沼 恵 子	〃	臨床検査技師	〃
小 林 康 修	〃	歯科技工士長	〃
石 河 達 雄	〃	歯科技工士係長	〃
御 代 田 明 彦	〃	〃	〃
高 橋 圭	〃	歯科技工士主任	〃
小 泉 香 澄	〃	歯科技工士	〃
遠 藤 龍 弥	〃	放射線技師主任	〃
柳 沼 雄 二 郎	〃	放射線技師	〃
平 石 ゆ か り	総務部(電話文庫室)	技術職員	12月 1日付
鳴 原 真 澄	歯学部学事部	係 長	12月26日付

<退職>

影 山 志 郎	環境整備課	課 長	12月27日付
国 分 明 子	病院医療部	歯科衛生士	12月31日付

<定年>

佐 藤 安 宏	総 務 部	係 長	12月 7日付
---------	-------	-----	---------

奥羽大学事務組織の改正

●学校法人晴川学舎 奥羽大学組織図（奥羽大学規程集 P503）

従来、その職種が特殊または特別、或いは多岐に関係しているものは、指揮命令上、長い間便宜的部署の配置にあった。これらの職種と職域をあらためて認識区分して、配置を適切にした。

＜名称変更した部署＞

- ・学事部（薬学部担当）教務課・学生課 → 薬学部学事部 学事課
- ・学事部（歯学部担当） → 歯学部学事部
- ・学事部（歯学部担当）大学院課 → 学事部 研究科教務課
- ・病院事務部 ※検査室・薬局・技工室・放射線科 → 病院医療部 医療課
- ・看護部 → 病院医療部 看護課

※学事部（広報担当）に所属している3名に関しては、企画・広報課所属とした。

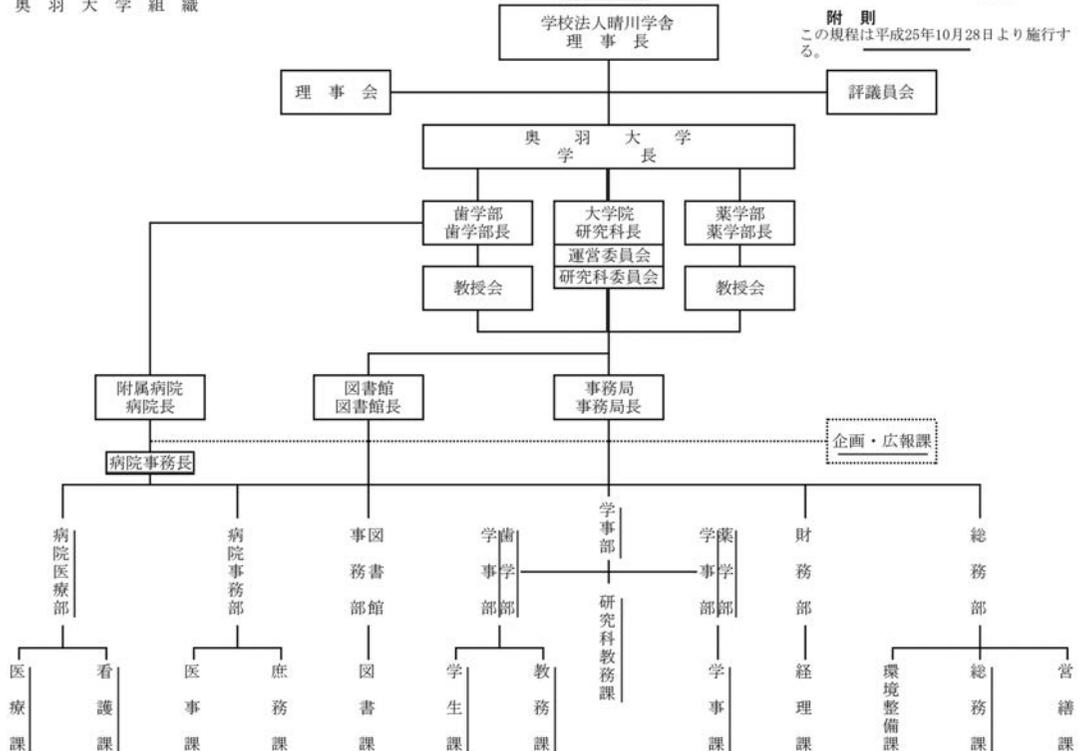
※部屋付の秘書に関しては、すべて総務部所属とした。

※用度課における業務は総務課で行うこととした。

学校法人晴川学舎
奥羽大学組織

改正案

P503



平成26年度入学試験日程

区分		募集人員	試験科目	出願期間	試験日	試験会場	
歯学部	一般選抜	一期	35名	・英語(I・II)	1月7日(火)～1月23日(木)	1月26日(日)	本学・盛岡・仙台・東京・大阪
		二期	10名	・数学(I・II・A)、物理I、 化学I、生物Iから 1科目選択	2月3日(月)～2月14日(金)	2月16日(日)	本学・青森・秋田・山形・水戸
		三期	6名	・面接	3月3日(月)～3月17日(月)	3月19日(水)	本学
	AO	三期	2名	・面接	3月3日(月)～3月17日(月)	3月19日(水)	本学
	同窓特別	三期	2名	・面接	3月3日(月)～3月17日(月)	3月19日(水)	本学
	編入学		若干名	・小論文 ・面接	9月9日(月)～3月20日(木)	随時	本学
薬学部	一般選抜	一期	50名	・英語(I・II)	1月7日(火)～1月23日(木)	1月26日(日)	本学・仙台・東京
		二期	20名	・数学(I・II)	2月3日(月)～2月14日(金)	2月16日(日)	本学・仙台・東京
		三期	5名	・理科(物理I、化学I、 生物Iから1科目選択)	3月3日(月)～3月17日(月)	3月19日(水)	本学
	AO	三期	3名	・面接	3月3日(月)～3月17日(月)	3月19日(水)	本学
	編入学		若干名	・小論文 ・面接	9月9日(月)～3月20日(木)	随時	本学

■大学案内・募集要項請求先(送料とも無料)

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31-1 奥羽大学教務課 入試係 ☎024-932-8931(代)

平成26年度 大学院歯学研究科入学試験日程

区分	出願期間	試験日	試験科目
三期	平成26年1月15日(水)～平成26年2月5日(水)	平成26年2月8日(土)	外国語(英語) 面接

— お詫びと訂正 —

奥羽大学報第140号「同窓生のひろば」に本来の星野弘志先生の文章ではなく、誤って前号の牧野義臣先生の文章を掲載してしまいました。ここに深くお詫びいたしますとともに謹んで訂正させていただきます。

奥羽大学報140号(通算No.265)平成26年1月9日発行 発行 奥羽大学 学報編集委員会 委員長 赤川 安正	☎963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1 電話 024(932)8931(代) FAX 024(933)7372 ホームページアドレス http://www.ohu-u.ac.jp メールアドレス info@ohu-u.ac.jp
---	--